

研究協議の記録

〈研究部から〉

○提案①②③の検証を。

- ・①→学習指導要領には指導内容が明記されていないため、自分たちで内容を吟味する必要がある。そのために学習関連図を作成していきたいが、どうか。
- ・②→こどもの課題への見方・考え方を充実させるためにも、しっかりとした共通体験が必要。今回の1次では、5つの共通体験を行ったが、どうであったか。
- ・③→②にもかかわるが、思考できる板書・グルーピングという思考ツールは有効であったか。まとめ方について意見をいただきたい。

〈授業者から〉

- 朝日小に元々あった単元は、少し3年生には難しい内容だったし、家庭科と重複していたため、単元構成に若干の手直しをした。
- 本実践で扱う食料自給率は5年生の内容だし、残食の割合を調べるのも5年生の学習内容。しかし、事前アンケートからもわかるように、給食を残すことに対して抵抗感のない子どもたちだからこそ、本実践は価値あるものだと考える。
- 調べたことが多岐にわたるため、付箋で3つに絞り、友達がびっくりするような内容を伝えようと声かけをした。
- 自作メニューに栄養教諭からダメ出しをしてもらうことで課題の更新をねらった。

〈協議〉

参観者：なぜこの5つの共通体験にしたのか。

授業者：当初は残食調査の予定だったが、マイナスイメージから導入することは探究の原動力にならないと考えた。また、給食についてある程度の知識をもっておくことが大切と考えたため。

共①～給食記念日とのかかわり

共②～以前の4年生がこの単元で使用したDVDがあった

共③～算数科で学習したグラフとの関連的指導

共④～残食調査

共⑤～メニュー作りをすることで、安全・安心という観点に気付かせたい

参観者：考え方を広げるというねらいでの共通体験の繰り返しは良かった。さらに調べたいという思いをもたせることができる。

参観者：個の課題が生まれてくることや課題別グループの分け方はどうだったのか。

授業者：当初考えていた課題は、「給食を残してはいけない理由を考えよう」だった。これでは、だめな理由を探す学習になり、負のイメージが強い。栄養教諭にダメ出しをもらって個の課題がたくさん生まれた。

参観者：共通体験と共通体験とのつなぎ方はどうだったのか。

授業者：メニュー作りに向かっていくために4つの共通体験を仕組んだ。明確にこれだといえるつなぎの手立てはなかった。また、それぞれの活動のふりかえりも不足していた。

⇒共通体験が多いと、一人ひとりの思いを拾ってあげることができなくなりがちだから注意が必要。

参観者：課題へのプロセスを大事にした共通体験になっていた。

参観者：感想を書く時間の保証を。グルーピングされたことにより、書きやすくなっていた児童もいた。

授業者：確かに「自分たちが楽しむだけのメニュー」ではだめだと感じている児童もいた。あとで感想を読み、検証したい。

参観者：3年生の段階でのグルーピングという手法は、今回のように、教師主導の全体で確認しながらで良い。6年生なら、個で行うべきだが。または、ベン図で共通項を探すという方法もあるが、それが有効かどうかは検証材料である。本時のまとめは、子どもの言葉にしてもよかった。

参観者：グループ発表では、発表内容を整理分析し、主張を要約して短冊に書かせた発表もできたのではないか。

参観者：3年生として、学び方を学ぶ実践になっていた。グルーピングしてまとめる際には、子どもたちからまとめの言葉がたくさん出てきていた。

古家校長：総合的な学習の実践は数多く見ているが、どれも単発で行われているもの。学年が上がると、学習内容だけでなく思考ツールの活用の仕方がどのようにグレードアップされていくのかわ知る必要はないだろうか。系統立てて見ていくことが大切になると思う。例えば、一つの学級の4年間の総合的な学習を追い、検証していくことはできないだろうか。

〈研究部〉

○学習関連図についてご意見はないか。

参観者：従来の1枚目に盛り込まれている「ひと・もの・こと」が別の言葉でも網羅されているならOK。

参観者：単元の流れや身に付けさせたい力が1枚でわかる。共通体験などものせることは可能だが、今回のような学習関連図ですっきりしているから、これで良い。